

デジタルアーカイブの利活用： 過去から未来をつなぐ 知識インフラ

デジタルアーカイブの役割は、1990年代初頭の導入期から大きく進化しました。単なる「資料の電子化」にとどまらず、教育、観光、地域活性化など、社会の中で生きた知識として機能させることが求められています。

収集・保管から、
次世代への「伝承」と
現代における「活用」へ

デジタルアーカイブの基本定義と進化



基本機能

過去～現在の資料を収集・保管し、デジタル化する。

二つの主要目的

1. 次世代への伝承：デジタルコンテンツを確実に未来へ残す。
2. 流通と利活用：国内外でのアクセスを可能にし、新たな価値を生む。

フェーズの変化

1990年代の技術開発中心のフェーズから、社会実装のフェーズへ移行。

博物館・図書館における実践と留意点



施設の役割：資料の保存だけでなく、生涯学習や観光の拠点としての機能が期待される。



- **撮影・記録の高度化：**資料の現状を正確に残すため、多視点からの撮影（3D等）が必要。展示空間そのものの記録や、展示のストーリー性もアーカイブの対象。
- **地域資料の価値：**寄贈・寄託された資料や、地域に関連する展示は、地域の歴史記録として極めて高い価値を持つ。



琉球村デジタルミュージアムプロジェクト

「モノ」だけでなく「物語」を記録する

- 地域の人々の作品

地域住民の創作物や収集資料も、許諾を得て公開することで地域連携につながる。

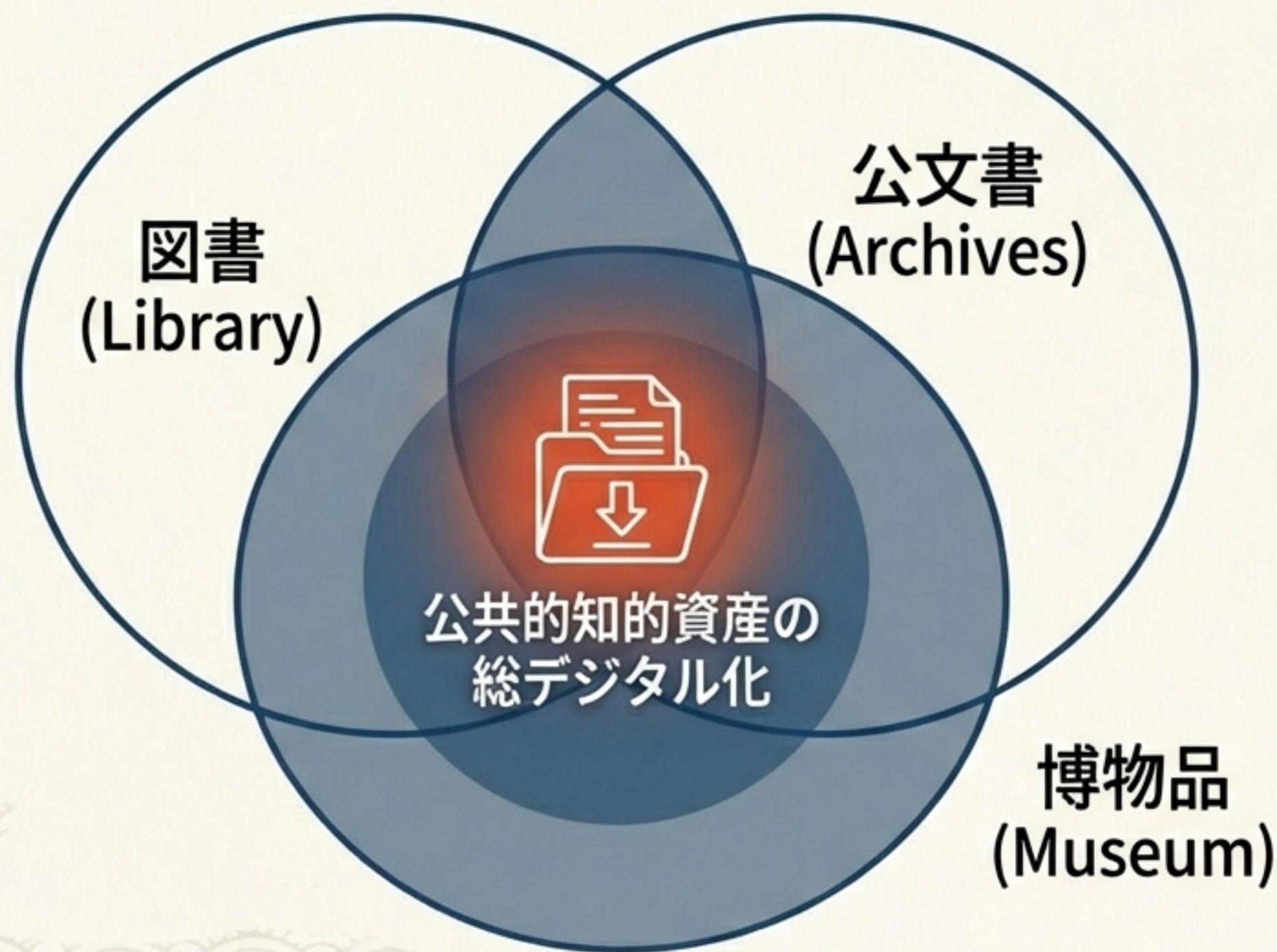
- オーラルヒストリー（Oral History）

地域の専門家や古老の話をデジタルアーカイブとして記録する。語りそのものが「地域資料」となり得るため、積極的な取り組みが必要。



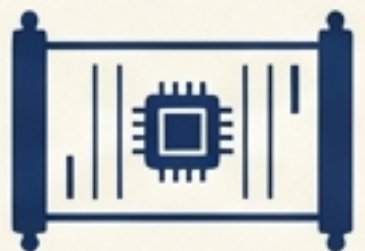
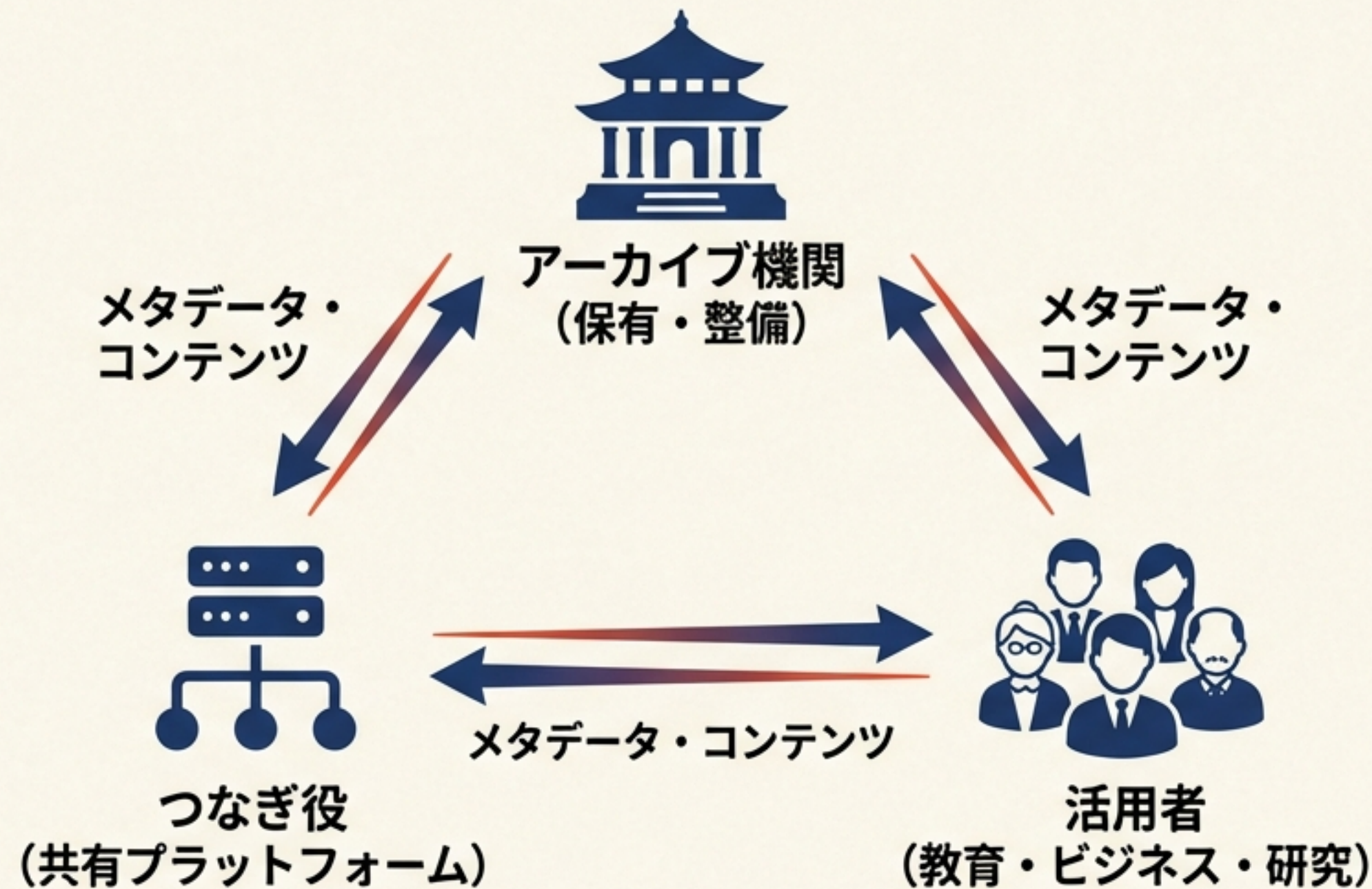
デジタルアーカイブは、地域の記憶とコミュニティの絆を保存するツールである。

「知のデジタルアーカイブ」構想 (2011-2012)



- **背景**
総務省「知のデジタルアーカイブに関する研究会」。
- **ビジョン**
インターネット上での電子情報共有により、知の地域づくりと相互連携を促進する。
- **成果**
2012年3月の提言により、連携のためのガイドライン策定への道筋がつけられた。

「連携の要：2017年 デジタルアーカイブ構築・共有・活用ガイドライン」



- ・ 目的: 分野横断的な連携の遅れを解消し、国の戦略として基盤を構築する。

ジャパンサーチ：国をつなぐプラットフォーム

- **正式公開:** 2020年8月（試験公開2019年2月）
- **運営:** 国立国会図書館がシステムを担当（内閣府の方針下）
- **機能:** 多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索・閲覧・活用可能（「つなぎ役」の具現化）



- **インパクト (Impact):**
 - 単独公開では難しかった**幅広い活用**（教育、ビジネス、地域活性化）を実現。
 - 新たな**知の創造**や**経済的価値の創出**への寄与。

2022年 博物館法改正：デジタル化が「法的責務」へ



「博物館資料に係る電磁的記録」
の作成・公開



改正の意義

資料のデジタルアーカイブ化とインターネット公開は、博物館の公共化と後世への継承において極めて重要であると定義された。

現在の焦点

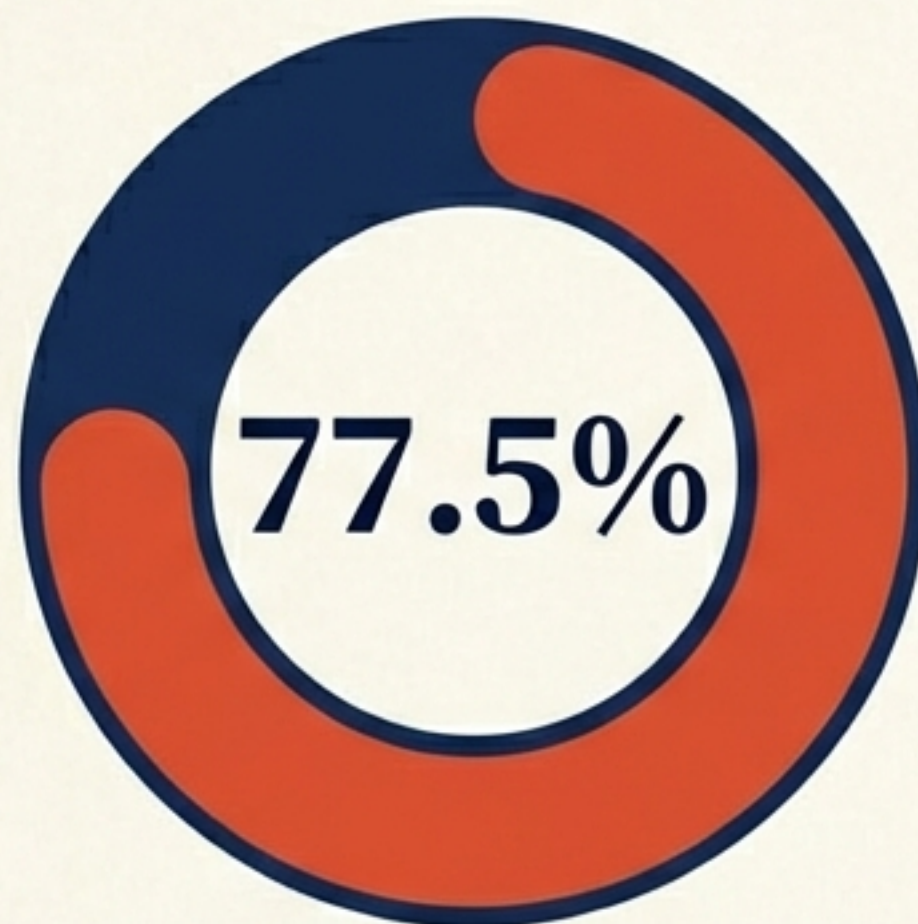
文化審議会博物館部会において、博物館DX（デジタルトランスフォーメーション）が当面の重要検討事項となっている。

理想と現実のギャップ：博物館のデジタル化状況

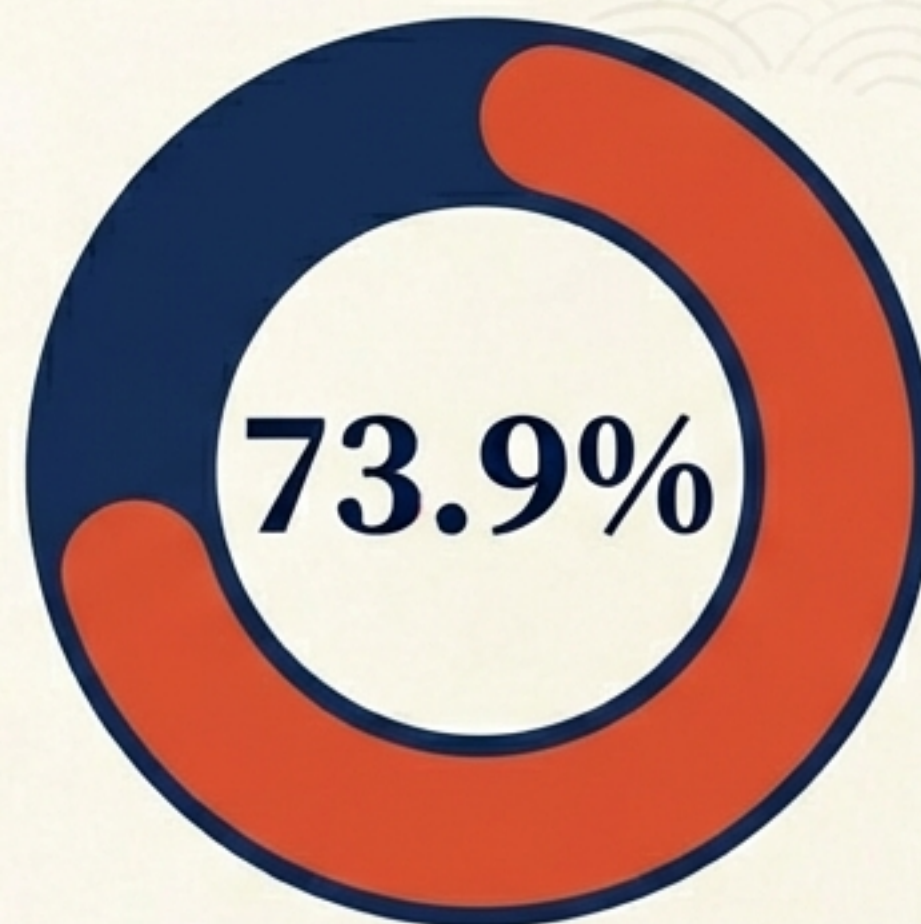
データ出典：2020年 博物館総合調査（日本博物館協会）



ICTを利用した新しい展示方法が導入できていない



ウェブサイト等での資料情報公開が不十分



資料や資料目録のデジタル化ができていない

法改正は行われたが、現場のインフラ整備とスキルアップが急務である。

博物館DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進



※政府による「博物館機能強化推進事業」（2022年度～）での支援対象

デジタルアーカイブ利活用の要点まとめ

図書館の実践



- 地域資料コーナーや教育支援との連携
- 書籍・出版物のデジタル化とアクセス提供

博物館の実践



- 多視点撮影、オーラルヒストリーの記録
- 法改正に基づく電磁的記録の作成と公開

共通利用 (Network)



- ジャパンサーチによる分野横断検索
- 「つなぎ役」を通じたメタデータの共有と二次利用の促進

持続可能な「知の循環」へ



デジタルアーカイブは、構築して終わりではありません。
「構築・共有・活用」の循環を持続的なものにすることで、初めて国民の知的財産として機能します。
地域固有の文化を世界へ発信し、次世代へ継承するための最も強力な基盤です。